

四、鐵道運賃の割戻又は輸出獎勵金の如き有效なる制度は廢止され目下の如き破産状態にありては到底復活の望みなし、輸出に對する國內並海岸の特別運賃は戰前獨逸工業に於ける輸出發展の第一要素なりき

五、將來國內の鐵屑の缺乏は之を外國品に依り補はざるべからざるも、其の値段は瑞典、西班牙等の鑛石に比し禁壓其他の方法に依り自由に左右せらるる恐あり

六、ルール占領に依り佛蘭西に對する賠償義務は終れりと主張するも、早晚占領軍の撤退と共にベルサイユ條約に於ける賠償義務の規定に復活し其の支拂は結局大部分工業家の負擔なり、既に休戰來獨逸工業家の負擔莫大なるのみにして、通貨下落に依り殆んど支拂不能に近し、利得税と云ひ販賣高税と云ひ金貨拂とすれば僅少に過ぎざるも通貨下落の結果は其の負擔重く賠償問題にして解決せられずんば單に製鋼業のみならず獨逸全工業の苦痛到底堪ふべからざるが如し

七、獨逸冶金工業の石炭問題も明に重大問題なれど、骸炭の缺乏は一層緊急事なり、恐らく佛蘭西は其の骸炭を自ら使用し國內の冶金工業を發達せしめ獨逸に對する供給は減殺する意向ならん

八、變化極りなき生産費材料受渡の遲延は國內取引に於て價格を不確定ならしめ、國外取引には輸出積出を後れしむ、尤も此の如き不安は勢ひ安値を呼ばしむるが故に外國顧客を喪失する事少きを得ん

如上の不利益は勞働並に經營の能率増進に依つて補はるべきなり、然るに經營が戰前以上に巧みとも思はれず、又八時

間勞働制が其の割に目算を増加せりとも思はれず、急激なる通貨下落は又甚敷聯合困難を招けるも其は一時的債務に止まり唯一の解決方法は戰前の如き有效なる能率を發揮するにあり、現在の儘にては獨逸工業戰前の競争力を回復する事到底不可能と信ず。

波蘭の鐵鋼業

元露領波蘭では製鐵業が自國使用量以上に多く生産しても餘り利益ないので埋藏鐵鑛もよく開發されて居らなかつた、鑛山を持つて居る主なる者は次の如くである。

The Hantke Ironworks.

The Bodzechow Co.

The Ozenstochan Co.

The Ostrovice Blast furnace & Ironworks Co.

The Sonvice tube Rolling mills.

The Starachowice Mining Co.

然るに上部シレシアの東の部分が併合され、其の地方にある鐵鋼工場は従前主として獨逸の鐵鑛を使つて來たけれども、最近獨逸は自國の使用に不足して位なので到底間に合はず、如何しても波蘭國內から適當な供給を受けねばならぬことになつた。そこで此の需要に應ずるため先達て Katowice に元露領波蘭の鐵鑛開發を目的として一會社が組織された、尤も波蘭政府は最良の鑛石は國家の手に收め、相當高税を以て鑛山會社に特許する意圖であると云はれて居るが、政

府は元露領の鐵鑛所在地方幾つかを上述 Katowice の會社の處分に委したので目下 Wielun Ozenstachan 附近を調査して居り、更に Radom 西部の褐鐵鑛地方に及ぶ筈である最近の見積によれば波蘭の鐵鑛埋藏量は各種併せて約六億萬噸と測定されて居る。故に遅くも三年以内には自國消費の六〇%位は波蘭領シレジアから供給したものと云はれて居る。

波蘭領上部シレジア地方では生活費の騰貴やら鑛夫の *high value wages* の採用要求やらで、勞働界は不安ではあるが石炭の産出は最近減少しては居らぬ。七月は日産平均九萬噸で昨年の冬や今年の春より却つて増加を示した。尤も八月は八萬四千噸に減つた。

獨逸送り石炭の量は慥に減つたが、其とて或方面で懼れられた程甚しくはない様で、八月十三日から十九日の一週間に一萬四千噸八月一杯では六十萬噸に達したらうと思はれるけれども本年初めの輸出は月一百万噸以上だつた事を記憶せねばならぬ、七月は七十二萬一千噸、六月は九十萬八千噸あつたからだんだん減つても依然獨逸が第一の輸出先で、七月を採つても其の他の國への輸出は全部で獨逸一國の半分である。例ば塊太利が二十萬噸で非常に増加したと云はれてる位である。チエックスロヴァキアなどが先達て罷業のため、一時的に増加した事があるものゝ、到底其の外の國には多く輸出し得様筈がない、元露領波蘭への賣込は諸工業沈滞の折柄まどうまく行かぬ。其の上斯界の或る人々はルール問題の解決難や解決後の生産回復の期間等を考へて獨逸への輸出は尙益々減退するものと感じて居る。

上部シレジアには資力が乏しいので炭坑の經營は將來國際

的シンヂケートに委せようかとの案もあり、既に其の協定のめに多少交渉は進められた、しかし従前元露領波蘭の鑛山に深い關係を有した伊太利資本家は、新炭坑の開發に目を惹かれて居る他國の連中とは離れて獨り上部シレジアに確固たる地歩を築かんと願つてゐるらしい。

獨逸通信員の報道によれば上部シレジア地方の鐵鋼業は其の存立のために製品の三分の二を輸出せねばならぬが、事實上左様な輸出率は近く達し得らるゝとも思はれないので、早晩難境に立ち到りはしないかと云ふ。即ちシレジア鐵鋼の主な得意先はいつも獨逸であつたが、獨逸への輸出が此の上減退すると、如何しても困難せねばならぬ譯である。

波蘭鐵鋼業にして將來發展を期するならばシレジア鐵道運賃率を元露領波蘭の率位に引下げ、販賣地に於ける市場價格と拮抗させ、更に輸出割戻を與ふる必要がある。政府も既に大體に於て此の方法に同意を表して居る。